

令和2年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和 3年3月22日

学校法人星和学園
幼保連携型認定こども園
星和幼稚園

1. 本園の教育目標

神に創られ愛されている存在として、いろいろな体験を通し、心の調和を図り、神と人とを愛する。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・新型コロナウイルス感染防止に努める。
- ・コロナ禍にあっても子どもたちに対して文化的生活を保障できるように保育教諭が使命感を持って保育にあたり、創意・工夫し、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を提供する。
- ・保護者との連携を大切にし、家庭と幼稚園双方で子どもを育てていく環境を作る。
- ・園外での研修会に参加することは難しいため、園内研修に力を入れ、一人一人の保育者が、目的意識を持って自ら学ぶ機会を作る。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	新型コロナウイルス感染防止に努める	A	<p>感染症の防止のために、建物完成と共に施設全体と園バスに光触媒を施したこと、また、湿度調節や除菌のためにハセッパ水の水の噴霧に努めていたという経緯があり、新型コロナウイルスの問題が出て、さほど慌てずに対することができた。一時期、次亜塩素酸水の噴霧が話題になったときには、心配する保護者もいたので噴霧することは控え、様子を見ることにした。しかし、殺菌作用、除菌については効果や安全性は確保されていたので、引き続きハセッパ水を使用しながら感染防止に努めることができた。</p> <p>給食時には手作りパーテーションで飛沫を防ぎ、子どもたちにはなるべく話をしないで食べるように、指導を徹底した。</p> <p>手洗いうがいを今まで以上に徹底し、ハンドソープを随時使用できるように流しやトイレに設置した。夏には熱中症の問題があったのでマスク着用は自由にしたが、乾燥が厳しくなる3学期からは、全員マスク着用をお願いした。子どもたちは、抵抗なくマスクを着用し感染防止に努めることができた。</p> <p>行事や、保護者会などは、感染防止のため人数を少なくしたり、中止にしたりして対応した。</p> <p>保護者が園内に入るときには検温を実施し、必ず消毒をしていただくように徹底した。</p>

2	保育教諭が使命感を持って保育にあたり、創意・工夫し、子どもたちが生き生きと過ごせる環境を提供する。	A	<p>4, 5月の緊急事態宣言下では、まだコロナの対応がはっきりしなかったため、先生方の心身の健康を最優先し、できるだけ自宅に待機してもらった。しかしこの間、YouTube等に歌や家庭でもできる簡単な遊びなどを紹介したり、子どもに手紙を送ったりなどの工夫は考えなかった。もし同じような状況になったときには何らかの手立てを準備したい。</p> <p>6月から始まった保育では、4, 5月の保育日数を取り戻すために、夏休みや冬休みを短くした。その分、今までできなかったことも工夫して行うことができた。</p> <p>また、保護者が園に来ることができず、今までは保護者の手をお借りして行っていた行事を年長児中心の行事に切り替え、子どもたち自身が企画し取り組むことができたので、創意、工夫を凝らし生き生きと取り組む姿が見られた。</p> <p>また、コロナ禍で、不安になりがちな状況でも毎日元気に仕事につけるように、朝皆で心を合わせて祈り、自分の携わっているこの仕事がどれだけ意味のあるものかという価値を再確認した。終礼では一日を感謝し、保育で気になったことや困ったことなどはお互いに話し合いながらより良い保育ができるように工夫してきた。</p>
3	保護者への説明、報告などを丁寧に行い信頼関係を作る。	A	<p>コロナ禍で不安になりがちな保護者の気持ちをくみ取り、できるだけ耳を傾け対応にあたるように心がけた。得に感染防止の観点ではTVやインターネットの情報で不安になる保護者からの意見を参考にし、どのような対応が適切かを適時考えたうえで対策を立てて対応にあたった。</p> <p>実際にコロナ感染者が近隣の幼稚園で出た時には、いろいろなうわさで保護者が混乱しないように、市長をはじめ市の職員、近隣の幼稚園の園長先生方と情報を共有し、対応のフローチャートを作って対応した。保護者はおおむね納得し、混乱を防ぐことができた。</p> <p>母の会の役員を園から指名し、最小限の活動を行うようにした。役員とは連絡を密にし、不安にならないように常にサポートできる体制を取った。</p> <p>また、日々の保育で子どものけがや人間関係でのトラブルなどがあった場合にはきちんと報告し、その状況を保護者が的確に理解できるように努めた。</p>
4	保育教諭自らが目的意識を持ち園内研修を主催し、お互いに研鑽を深める機会を持つ。	A	<p>外部の研修会に参加が難しいため、保育専門書を購入し、先生達が自ら興味関心を持ったことについてそれぞれ研究し、園内研修を主催することができた。みな積極的に取り組み、身近な話題について役立つ情報を共有できた。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	<p>コロナ禍という特別な状況においても、子どもたち一人一人が伸び伸びと過ごせる環境を作り出すことができた。行事などは、保護者の手を借りずに行うことによってより子どもたち主体の活動が展開でき、子どもの成長をよく感じることができた。保護者もご理解ご協力をくださり、最初の頃の不安な状態から次第に落ち着き、積極的に園に協力して下さる姿が見られた。いろいろと難しい状況下においても教職員、保護者が一致し、園生活を守り抜くことができた。</p> <p>園内研修を先生たちが主体的に行うことによって一人一人の教職員の質の向上につながり、意識の向上を図ることができた。</p>

評価（A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった）

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	個々の保育士の保育に対する知識や方法の向上	今年度1年で、現在働いてくださっている先生方の質の向上を図ることができたが、来年度はまた新人を4人迎える。それぞれがより積極的に保育に取り組めるように引き続き、自ら考え積極的に動けるような環境を作っていく。また、園内研修の内容を、個々の保育士に課題意識を持って参加してもらえるように工夫する。
2	危機管理意識の向上と取り組み	新型コロナウイルスに見られる感染防止対策をはじめ、自然災害に対する意識も深め、危機管理について全員が意識を持って取り組めるように「可視化」したり、話し合ったり、実際に訓練したりという機会を引き続き行っていく。特に巨大地震が起きた時の対応について準備する。
3	働き方改革に言われる労働時間の短縮と働き方の工夫	勤務時間を守って早く帰るように勧めるだけでなく、仕事の内容も把握し、何が大切なことで残すべきか、何を削減できるかを共に考え、より良い環境づくりに努めたい。また、ICT化を進め、簡素化できる部分は簡素化できるように努める。

6. 学校関係者評価委員会の評価

昨年に引き続き、子どもの数は増え続けている。これは今年度から始めた満3歳児クラスの影響もあるが、地域に根差した園に成長しつつあることの結果ととらえることができる。

コロナ禍の難しい状況にあって、適切な運営を目指すとともに、子どもたちの文化的教育と保護者対応にも尽力されたことは評価すべき点である。また、結婚された先生が2人おりその先生方が担任から離れると聞いているが、そのための準備も今年度のうちにある程度できているようである。先生方の意識がより積極的になったとの報告は素晴らしいと感じた。今後も、引き続き、日々の保育の向上とともに、先生方の育成に力を入れ、益々よい園に成長していくことを願っている。

【参 照】

保護者の園に対する評価

今年度は保護者が参加できる行事も減り、保護者の声を具体的に集める機会は少なかったが、参観のしおりや個人面談前のアンケートを見ると、子どもの成長を喜ぶ記述が多くあり安心するとともに感謝した。おおむね、園の方針や保育そのものを通しての子供たちの成長に対する満足度は高かった。

また、コロナ禍にあって、園の対応に対して意見や伺いはあったものの批判はなく、おおむね理解と協力の姿勢で答えていただくことができた。また、たくさんの保護者からこのコロナ禍での対応に対してねぎらいの言葉をいただくことができた。